

# チームけせんの和 だより

2016  
vol.10  
3月号

発行 陸前高田の在宅療養を支える会（チームけせんの和）

〒029-2205 岩手県陸前高田市高田町字鳴石42-5 TEL 0192-54-2111 FAX 0192-55-6118



## 「グッドエイジングをサポートするために」

吉田歯科医院 副院長 吉田重之

平成25年4月にUターンしてきた歯科医師の吉田重之です。最初は東京で学んできたことを吉田歯科医院でおおいに活かして地域医療に貢献しようと勇んでいましたが、東京と陸前高田ではデンタルIQ（以下：D I）のギャップが大きく学んできたことをすぐには活かせる状態ではありませんでした。月日が経ち私自身も慣れてきたこともあり最近やっと陸前高田の人たちへの対応も安定してきました。そうすると少し心に余裕が生まれたのが、吉田歯科医院内外への関心が高まってきました。現在私が二児の父であることが大きく影響しており子どもの虫歯予防活動に力をいれることにしました。その活動の一つに「Blooming TAKATA」があります。これは大船渡病院 小児科医の森山先生と私とで協力して陸前高田の子どもたちの健康を小さいうちから支えようとするグループです。陸前高田の子どもの二大疾患、状態としまして肥満と虫歯があります。これら二つは生活習慣との関連が強く小さい内から正しい知識と習慣をもってして予防改善できると考えられます。先に述べたように陸前高田のD Iは低く全年齢層において口腔内の状態が悪い人が多い印象を持っています。言葉は悪いですが「よくこの状態で過ごせていましたね…」と思わず言いたくなるほどです。

話は変わりますが、私事で二人の子どもは現在下矢作保育園でお世話になっています。そこで私が感心していることは、園児と近隣の高齢者が事あるごとに一緒に行事をおこなっていることです。下矢作保育園の園児は少ないのだけれど、運動会などは近所から園児とまったく関係ない高齢者も集まって総勢100名を超える大運動会になっていて老若男女刺激を受けあっているようです。石木先生が以前、人が安心してくらせる環境は高齢者にも子どもにも優しい環境ということを書いていたような記憶があります。まさに安心して預けられるところと思ってわざわざ高田から下矢作まで送り迎えをしています。世間の注目は超高齢化社会にあります。やはり子どもがいないと大人もやる気がでないのかなと感じる今日この頃です。

最後になりますが、歯科医院には全年齢層の患者さんがいらっやいます。さっき入れ歯を調整していたとおもったら今度は乳歯の虫歯と頭の切り替えが大変です。Blooming TAKATAを介してこれからの陸前高田を担う子どもたち、ひいては子どもを支える親、祖父母みんなを巻き込んで健康な町、陸前高田に少しでも貢献できるよう今後も活動的にがんばっていきたいです。



Blooming TAKATAの様子

## 愛ネット高田の活動紹介

NPO法人愛ネット高田 所長 千田 富士夫



NPO法人愛ネット高田は、平成14年に陸前高田市で初めてのNPOとして設立され、現在は、介護保険事業の居宅介護支援事業所「愛ネット高田」、訪問介護事業所「ヘルパーたかた」、そして、福祉無償運送事業で「移動支援たかた」を運営しております。

平成27年2月に高田町下和野公営住宅に事務所を移転して1年が過ぎました。当事業所は、皆様と同じように震災の影響を少なからず受けました。すべてが消え、残ったものは小さな車1台でした。

私たちは、居宅介護支援を行いながら、地元の方、県内外の皆様のご支援により、平成27年1月より日本障害フォーラム（JDF）の無償移動支援事業を引き継ぎ現在に至っております。

引き継がせていただいた事業は、「移動支援たかた」として、障がい者（児）、高齢者を主な対象者として、介助がなければ移動が困難、かつ、単独でタクシーその他の公共交通機関を利用することが難しい方を車両により無償で移動の支援を行っております。

バス、BRTなど交通機関は整いつつありますが、利用しにくい環境にお住いの方々も多くおられます。現在の利用状況は、障がい者が5割弱と高齢者、児童が利用されており、利用目的は通院が8割以上を占めている中で、改めて続ける意義を感じております。

事業所は、地域の皆様が障がいをもったり、高齢者になり、介護や援助が必要になっても、これまでと同じように活動や行事に参加でき、希望や生きがいのある生活が実現できることを目標としており、法人の理念である、「あなたも私もより良く生きる」に向けて、福祉や介護の地域の身近なパートナーとして、保健、医療と連携・協働して参ります。

日々変わる陸前高田の地で皆様が日常を穏やかに過ごされることを願いお手伝いさせていただきます。サービス利用のご相談などお気軽にお立ち寄りください。いつもご支援くださる皆様これからもよろしくお願い申し上げます。

## チームけせんの和 活動報告

平成27年度 第7回研修会（45名参加）

テーマ「引きこもり高齢者への対応」

講師 旭神経内科リハビリテーション病院 院長 旭 俊 臣 先生



旭先生より、1) 地域における認知症高齢者に対する医療介護の現状、2) 認知症高齢者に対する医療介護の対応、3) 今後の対策などについてのお話がありました。団塊世代が75歳以上になる2025年を目途に、松戸市ではリハビリ伝道師の育成をしており、介護予防教室の効果も紹介されました。



## チームけせんの和に寄せて

公益社団法人陸前高田シルバー人材センター 大西 こずえ

皆さま、いつもお世話になっております。震災を経て、早いもので5年の月日が経ちました。利用者一人ひとりを訪ね歩いた日々がずいぶん昔のこの様にも感じます。

在宅療養を支えるという観点で、保健、医療、介護は無くてはならない存在と痛切に感じております。分野の垣根を越えてのチームケアを担う一員として、身の引き締まる思いです。

さて、被災地の環境は大きく変わり、今まで元気で暮らし、漁業や田畑の仕事に精を出したり花を育てたりと、一人ひとりの暮らしの営みがあった場所は、今姿を変えて私たちの目の前に広がっています。

震災から、2年が過ぎた頃、「あ～もう何もかにも、やんたぐなった」という言葉を耳にするようになりました。訪問先で、ご家族から暮らしの再建の厳しさや、仮設住宅での介護の難しさなど、答えのない答えを求められ、戸惑った覚えがあります。そんな時、チームけせんの和が発足されたと聞き、立ち上げに尽力された石木先生を始め関係者の皆さまの努力に本当に頭が下がる思いでした。

それから3年、仮設住宅で暮らしていた方も徐々に新居へ移り、以前の姿を取り戻しつつあるように見えます。しかし、心の復興にはまだまだ時間が掛かるのではないのでしょうか。

現在、当事業所では介護員15名が登録し、訪問介護や自費サービスの援助を行っています。年齢の高い介護員ですが、皆気持ちだけは20代です(?)。その人生経験を生かし、利用者の方々と積極的にコミュニケーションをとれるのが当事業所の利点だと思っています。

事業所のモットーは、1人はみんなの為に、みんなは一人の為に。

微力ながら地域のためにお手伝いできたらと思います。今後とも宜しくお願いいたします。



平成27年度 第8回研修会 (83名参加)

テーマ「目からウロコの介護術 ～自立と自律を考えよう～」

講師 生活とリハビリ研究所代表 三好春樹先生



「オムツ外し学会」や「チューブ外し学会」を立ち上げて、日本全国で「生活リハビリ講座」を開催している介護福祉分野の第一人者である三好先生より、「人間性を重視した介護のあり方」

など、興味深い介護術についてのお話をいただきました。



## ★劇団ばばば★ 公演報告★

2月2日、市民交流プラザで劇団ばばば☆の昼公演が行われました。

演題は「塩を減らそう!」です。役者は「はまらっせんクラブ」に加入されている方々と市営住宅下和野団地の住民の方で構成されており初舞台を踏みました。いつもの公演と違ったのは、配役には医師以外の専門職が入っていないのが特徴です。しかし、俳優陣は台本をよく読みこなしており、堂々の演技で会場を沸かせました。



2月10日は入居が始まって間もない市営住宅中田団地の集会室で、諏訪中央病院名誉院長の鎌田實先生をお迎えして、脳卒中予防の「塩を減らそう!」の寸劇を行いました。オープニングは、りくカフェレディース「TAKE 4」の皆さんによる「減塩の歌」でスタート。寸劇では、諏訪中央病院名誉院長の鎌田實先生が5月の公演に続いて2回目、役者陣も久々の出番でしたが、拍子木が鳴ったとたんそれぞれ女優・俳優の顔に!会場からも納得いく表情が見られました。終了後には鎌田先生のミニ講演会もあり、参加した住民の方々は益々満足の様子でした。

3月12日は米崎コミセンで「はまらっせんクラブ・年度末懇親会」で寸劇「塩を減らそう!」が2月2日同様の役者プラスはまらっせんクラブの創始者で元高田病院医師の高橋祥先生がわざわざ遠方から駆けつけてフレッシュなメンバーで公演しました。その後には減塩の昼食を囲み、健康で長生きの話が弾みました。



※「はまらっせんクラブ」被災者の健康づくりを目的とした農園クラブです。市内の仮設住宅や公営住宅の付近に12箇所あり、入居する人たちが共同で畑作りや野菜作りをしながら、集まった人達で会話をしんだり収穫祭を行ったり交流を深めています。

### 編集後記

今年は梅のほころぶのが早く、近くの「川津桜」も3月には蕾がふくらみ中旬には咲き始めました。小学校で新入生が明るい声ではしゃぎ始めるのももうすぐです。「チームけせんの和だより」も今年度の発行は今号が最終号です。なかなか早め早めに準備できずに遅めの発行になってしまいましたことをこの場でお許しいただきたいと思います。

そして新年度も「チームけせんの和」の会員のみなさんがそれぞれの現場でご活躍されますことを、事務局一同心からお祈りします。